

## 令和元年度 奈良市立済美幼稚園 研究実践概要

園長名 福田 芳高  
全園児数 24名

### 1. 研究主題

「心身ともに健やかで、やる気を持った幼児の育成」

### 2. 研究年度

3年度

### 3. 研究主題設定理由

核家族化が進み、家庭では限られた人との関わりの中で育つ幼児が多い。また、入園までの経験差が大きく、初めてのことに不安や戸惑う姿も多くみられる、そこで、身近な環境に関わり様々な体験や経験をする中で、体を動かして遊ぶ楽しさやいろいろな人との触れ合いを通して、やる気を持ち主体的に取り組もうとする幼児の育成を目指して、本主題を設定した。

### 4. 具体的な研究内容

#### ①研究のねらい

様々な体験や経験を重ねる中で、いろいろな人と関わりふれあいながら、幼児がやる気を持って主体的に活動しようとする力を育てる。

#### ②研究の重点

- ・研究主題について共通理解を図り、昨年度の課題を踏まえながら、具体的な取り組みの方法を探る。
- ・生活や遊びの中で、直接的・具体的な体験を通して、人と関わる力や思考力、感性や表現する力を育み、生き抜く力の基礎を培う。
- ・遊びの中で十分に体を動かし、たくましい心と体を育む保育と環境の工夫をする。
- ・家庭・地域・小学校・保育園との連携を深め、様々な環境や人との関わりを通して、多様な経験ができるように計画し、保育の充実を図る。

#### ③活動の方法

〈事例1〉『ぼくたちも転がったらいいねん!』4歳児 10月

10月後半ごろから園庭に落ちているどんぐりを集め、様々な大きさや種類があることに気付いたり、どんぐりを遊びの中に取り入れたりする姿があった。また、段ボールや空き箱などを使ってどんぐり転がしコースを作り、どんどんコースをつないだり、どんぐりを転がしたりして遊ぶ姿があった。

そんな中、「ぼくたちも転がったらいいねん」と話し、段ボールを砂山の上からたくさんつないで、その上を転がる（滑る）ことを楽しみ始めた。その様子を見ていた周囲の友達も「ぼくもやりたい」とたくさん参加し始めた。友達同士で“どのように



したらもっと滑りやすいのか” “次はどんなコースにつないでいくか” など、思いを出し合いながら、考えたり、試したりする姿があった。

#### 【反省・評価】

「ぼくたちも転がったらいいねん」と、考えたり試したりしている中で、同じ思いをもっている友達と力を合わせたり、思いを出し合ったり、いろいろな方法を試したりする姿につながった。1学期にしていたサーキット遊びや、運動会でした競技遊びなど、子どもたちが園生活の中でしてきた経験を今回の遊びの中で取り入れている姿があり、子どもたちのひとつひとつの経験の積み重ねや共通体験が、遊びを発展させたり、子どもたちが主体的にやる気をもって物事に組み入る姿につながると改めて感じた。

#### 〈事例2〉『サッカーの試合がしたい!』4歳児 12月

1学期からゲストティーチャーとしてサッカーコーチに来ていただき、年に7回の位置づけでサッカークラブを行っている。初めの方は楽しんで体を動かしたり、ボールに親しめるようなゲームをしたりしていた。そんな中で、年長児がサッカーの試合をしている姿を見て、「かっこいい。ぼくたちもやってみよう」という思いが出てきていた。2学期に入ってからサッカークラブではついに4歳児でもサッカーの試合をすることになった。子どもたちは嬉しそうにビブスをつけ、サッカーの試合に参加する姿があった。回数を重ねるごとに、ボールの扱いやゲームのルールが全体に浸透してきて、サッカーの試合の楽しさを心身で感じる姿が増えてきた。朝の自由選択活動の中でも「サッカーしたい!」と自分たちでサッカーゴールやボールを用意したり、チーム分けをしたりしてサッカー遊びをする姿がある。

#### 【反省・評価】

サッカーのコーチに体を動かすことの心地よさや、ボールを使った遊びの楽しさを教えてもらうことで、相手の話を最後まで聞いたり、ルールを守って遊びを進める大切さや心地よさを感じたりする姿につながった。また、年長児が試合をしている姿を見て、憧れの気持ちを抱き「ぼくたちもやってみよう」と意欲的に参加する姿が見られた。遊びの中でも5歳児と声を掛け合って一緒にサッカー遊びを楽しむ姿が見られる。

#### 〈事例3〉『カブトムシ今日も元気かな?』5歳児 4月~7月

前年度生まれたカブトムシの幼虫を去年度の5歳児から引き継ぎ、4月から大切に育てていた。子どもたちは朝登園すると毎日のように「今日も元気かな?」「大きくなったかな?」と飼育ケースを覗いたり、霧吹きをしたり糞の掃除をしたりして世話をしていた。子どもたちにわかりやすいようにカブトムシの成長の過程の写真をまとめて掲示していたことで「今このくらいになったかな?」と成長を楽しみにしていた。幼虫が大きくなったり、さなぎになったりする過程を見てきたことでより生き物を大切にしようとするようになってきた。ある日飼育ケースを開けると成虫になっていた。子どもたちは大喜びし「今日がカブトムシのお誕生日だね!」「ハッピーバースデーの歌うたおう!」とみんなで歌い、さっそく図鑑を持ってきて食べるものやどんな住処にするとよいかなど調べていた。



#### 【反省・評価】

虫が好きな幼児が多く、カブトムシを育てられることをとても喜んでいて、子どもたちの見やすいところに飼育ケースを置いたことで、観察し世話をすることが日課となった。

また、成長過程がわかるように表示したことでより興味を持つことができた。しかし、霧吹きやし過ぎや、土の触りすぎなどが原因なのか角が折れたような形で羽化するカブトムシもいたので、扱い方について保育者がよりよく知り伝えていかなければならないと感じた。継続して世話をしてきたことや成長の過程を見てきたことで、カブトムシに愛着をもち、生き物を大切にしようとする姿につながったのだと考える。

〈事例4〉『いらっしやいませ！今日のオススメはこれです。』5歳児 11月

園庭のどんぐりや落ち葉をたくさん集めて遊ぶ姿があり、その中からどんぐりや落ち葉をボンドで段ボールに貼り付けてケーキやクッキーに見立てるごっこ遊びが始まった。ボンドをたくさん塗っては「クリームみたいだね。」「重ねたらどうなるかな？」と、子どもたちは思い思いに好きな形の段ボールにどんぐりや落ち葉を貼り付けてたくさんつくっていた。そして次第に「いらっしやいませ〜。」とお店屋さんごっこに発展していった。



「いらっしやいませ！今日のおすすめはこれです。」と並べたり「ポイントカードもつくろう！」「ポイントでお買い物できますよ。」とお客さんに勧めたりと自分たちで考えながら遊びを発展させていた。その後も「レンジもあったらいいなあ〜。」と段ボールでつくったり「食べる場所はここにする？」と場所を新たにつくったりしていた。

#### 【反省・評価】

子どもたちが興味を持っていることに寄り添って材料を準備していくことで、子どもたちが楽しみながら繰り返し遊ぶ姿につながった。クッキー・ケーキづくりからお店屋さんごっこになったことで友達とのやり取りも増え、相談しながら遊びを進めていた。遊びが盛り上がってくるとポイントカードやレジなど自分たちで用意したい気持ちが芽生え、その都度材料を新たに準備したことで意欲的に取り組む姿につながった。また、生活の中で身近な大人の様子をよく見ているからこそだと感じた。

## 5. 研究の成果

たくさんの経験をする中で、人との関わり、友達との関わりを増やしていくことができた。特に、保・幼・小連携に取り組むことで、保育園の友達、異年齢の友達、小学生らとふれあう経験や体験を通して、いろいろな思いに触れ感じたり、刺激を受けたりしたことで、自らやってみようと意欲的に取り組もうとする姿につながった。

## 6. 今後の課題

今後も家庭や地域、保幼小中等、多くの人と触れ合い、幼児の心に残る体験を積み重ね、心身ともに健やかな幼児の育成を目指し、保育内容の創意工夫に努めていきたい。